

---

---

## 二級河川 大津川水系の当面の治水目標の設定について

---

---

1. 大津川流域の現状
2. 治水計画の概要
3. 治水事業の概要
4. 当面の治水目標の設定

# 1. 大津川流域の現状

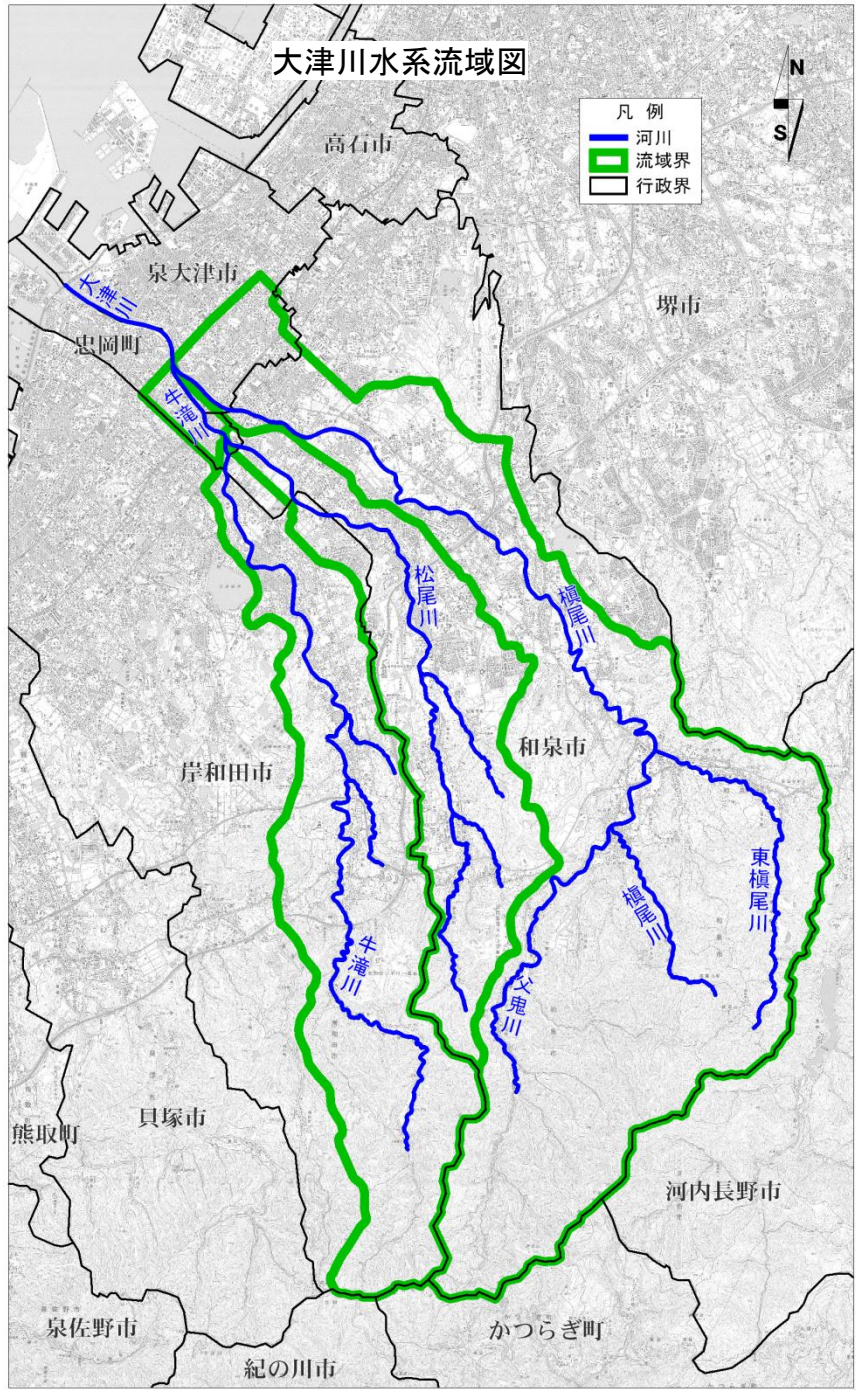
- 大津川水系は、源を葛城山系に発し、父鬼川、東榎尾川、榎尾川、松尾川、牛滝川の支川を合流して大阪湾に注ぐ、流域面積102.2km<sup>2</sup>、流路延長約68.0km（うち二級河川指定区間流路延長56.6km）の府域最大の二級水系。
- 流域は、和泉市（71.9%）、岸和田市（26.3%）、泉大津市（1.2%）、忠岡町（0.6%）の3市1町にまたがっている。

大津川水系位置図



指定区間延長・流域面積

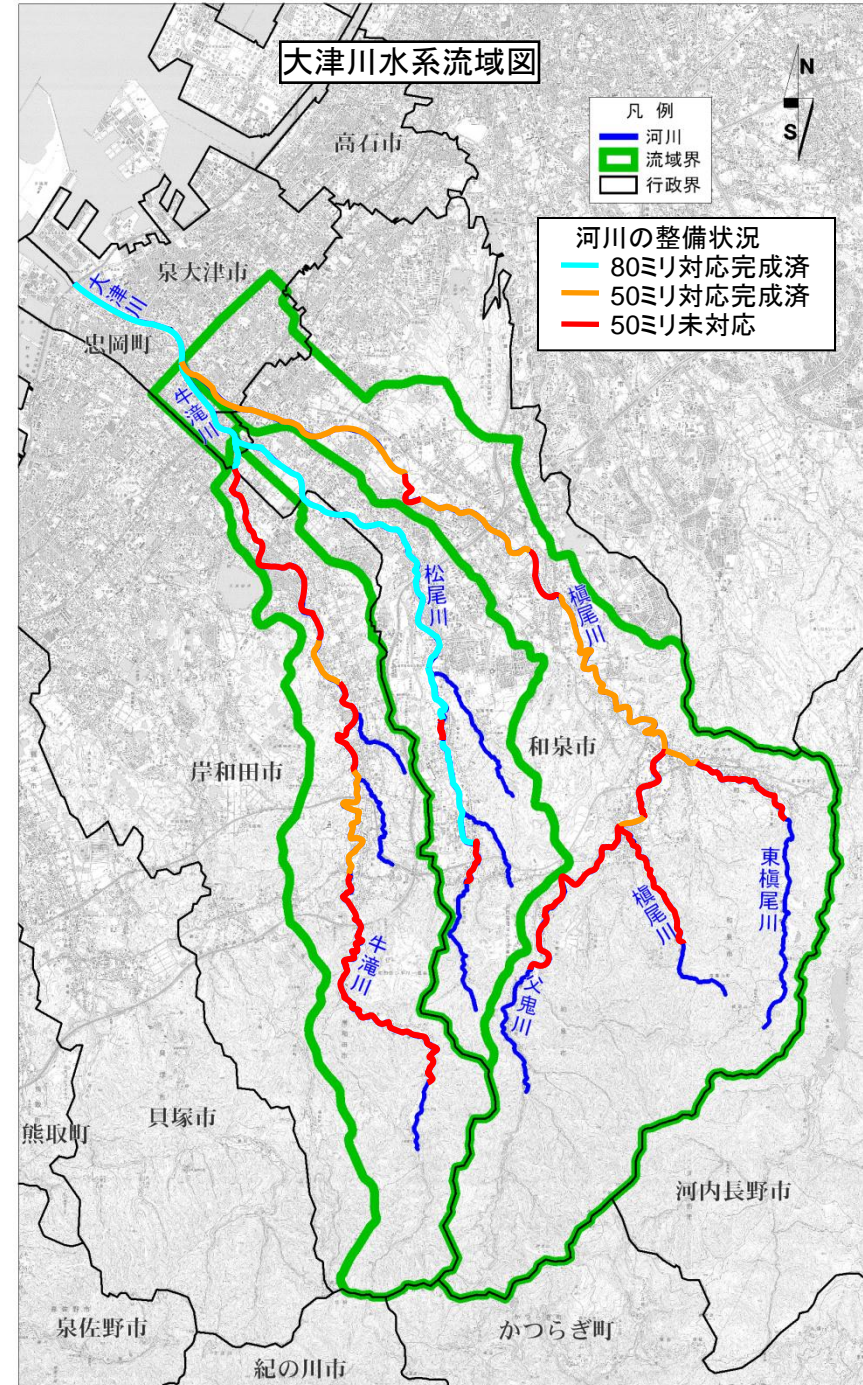
河川名	指定区間延長(km)	流域面積(km <sup>2</sup> )
大津川	2.6	102.2
榎尾川	18.3	56.7
父鬼川	3.2	19.7
東榎尾川	2.6	10.6
牛滝川	17.5	45.4
松尾川	12.3	18.0
合計	56.6	102.2



# 1. 大津川流域の現状

## ●治水対策の状況

	状況
大津川	○時間雨量80ミリ程度への対応が完成済。 【進捗率】 100% (=2.6/2.6km)
榎尾川	○時間雨量50ミリ対応を実施中。 【進捗率】 79% (=10.0/12.6km)
東榎尾川	○時間雨量50ミリ対応を実施中。 【進捗率】 53% (=0.63/1.2km)
父鬼川	○現状でほぼ時間雨量80ミリ対応が可能のため、 これまで計画的な河川整備は未実施。 【進捗率】 -%
牛滝川	○時間雨量50ミリ程度への対応を実施中。 【進捗率】 54% (=6.8/12.5km)
松尾川	○時間雨量80ミリ程度への対応を実施中。 ○最上流部は開発に伴い整備済。 【進捗率】 92% (=8.6/9.3km)



# 1. 大津川水系の現状（河道の状況）

- 大津川水系において、時間雨量50ミリの降雨に対応した河川改修が約75%完成。
- 昭和46年の事業着手から40年以上が経過している区間もあり、護岸の老朽化が著しく進行している箇所が見られる。



榎尾川



牛滝川

# 1. 大津川水系の現状（河道の状況）

- 松尾川では、過去より河川改修を行っているが、近年、護岸の老朽化が著しく進行している箇所がみられる。
- 事業中区間（庄ノ川橋下流～冬堂橋上流）においても、護岸の崩壊が発生している。



平成23年被災箇所 冬堂橋下流右岸（松尾川）

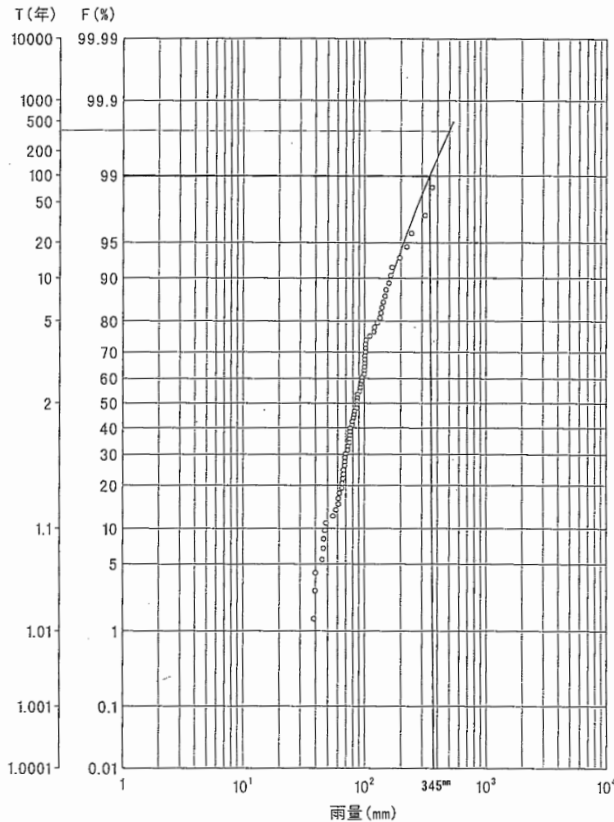


平成24年被災箇所 庄ノ川橋下流右岸（松尾川）

# 2.1 治水計画の概要（現計画：S46全体計画）

## ①計画日雨量

- 観測地点：岸和田観測所（大阪管区気象台）
- 対象期間：M24～S39（S24, S25欠測） 72資料
- 算定方法：上記72資料を用いて異常値推測式により各確率規模の日雨量を算定
- 算定結果：下図および下表の通り



確率規模	日雨量 (mm/日)
1/10	163
1/20	215
1/30	240
1/50	282
1/100	345

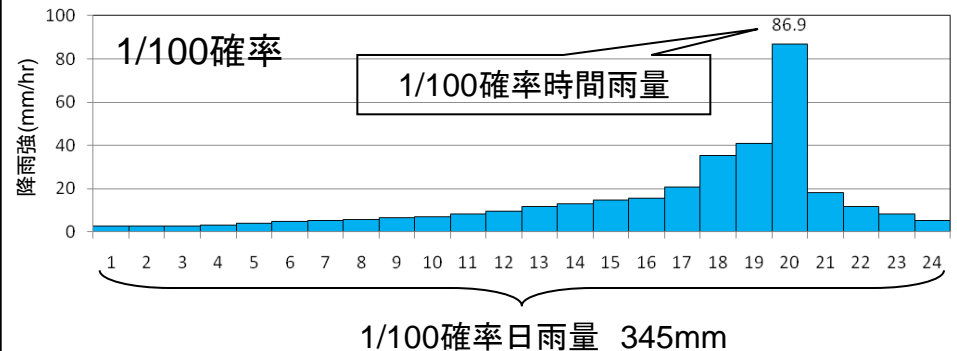
図 異常値推測式によるプロット

## ②確率時間雨量 (1/100確率)

- 算定方法：全体計画策定時、岸和田観測所[気]の時間雨量が記録されていなかったため、計画日雨量(1/100確率)に近い見山観測所[府]との比率から岸和田観測所の確率時間雨量を算定
- 算定結果：86.9mm/hr

## ③降雨波形

- 設定方法：実績波形を元にモデル化した大阪府主要累加百分率曲線に基づきモデルハイエトを作成



※その他の確率規模も同波形を用い日雨量の比率をかけてハイエトを作成

# 3. 治水事業の概要

## ○治水事業の沿革

- 昭和27年7月豪雨による大出水を契機に災害復旧事業に着手。
- 昭和46年、基準地点高津における基本高水を1,300m<sup>3</sup>/sとする大津川水系の全体計画を定める。  
大津川の中小河川改良事業（築堤・掘削）に着手  
榎尾川、東榎尾川、松尾川等の小規模河川改修事業に着手
- 昭和57年8月の台風10号の出水により、甚大な被害が発生。  
※床上浸水168戸、床下浸水5,526戸  
この出水を契機に大津川、東榎尾川、松尾川等で改修の計画対象区間を位置け。
- 平成7年7月の梅雨前線豪雨により、和泉市で床上浸水が発生。  
※床上浸水11戸、床下浸水60戸
- 平成13年3月大津川水系河川整備計画を策定。
- 現在、大津川では概ね100年に一度程度で発生する規模の整備は完成。  
大津川以外の河川では、50ミリ対策が未完成の区間が残される。
- 近年においても、出水による護岸崩壊などの河川施設の被害が発生している。

近年の災害(公共土木施設災害復旧事業費に関するもの)

単位:件

年度	榎尾川	牛滝川	松尾川	原因
平成11年度	1	6	3	平成11年6月22～7月4日 梅雨前線豪雨
平成13年度	1	2	2	平成13年10月1日 豪雨
平成19年度	1	-	2	平成19年7月5日～17日 梅雨前線豪雨及び台風4号 平成19年8月19日～23日 豪雨
平成23年度	-	-	1	平成23年8月30日～9月7日 台風12号及び豪雨



平成23年度 松尾川(冬堂橋下流右岸被災状況)

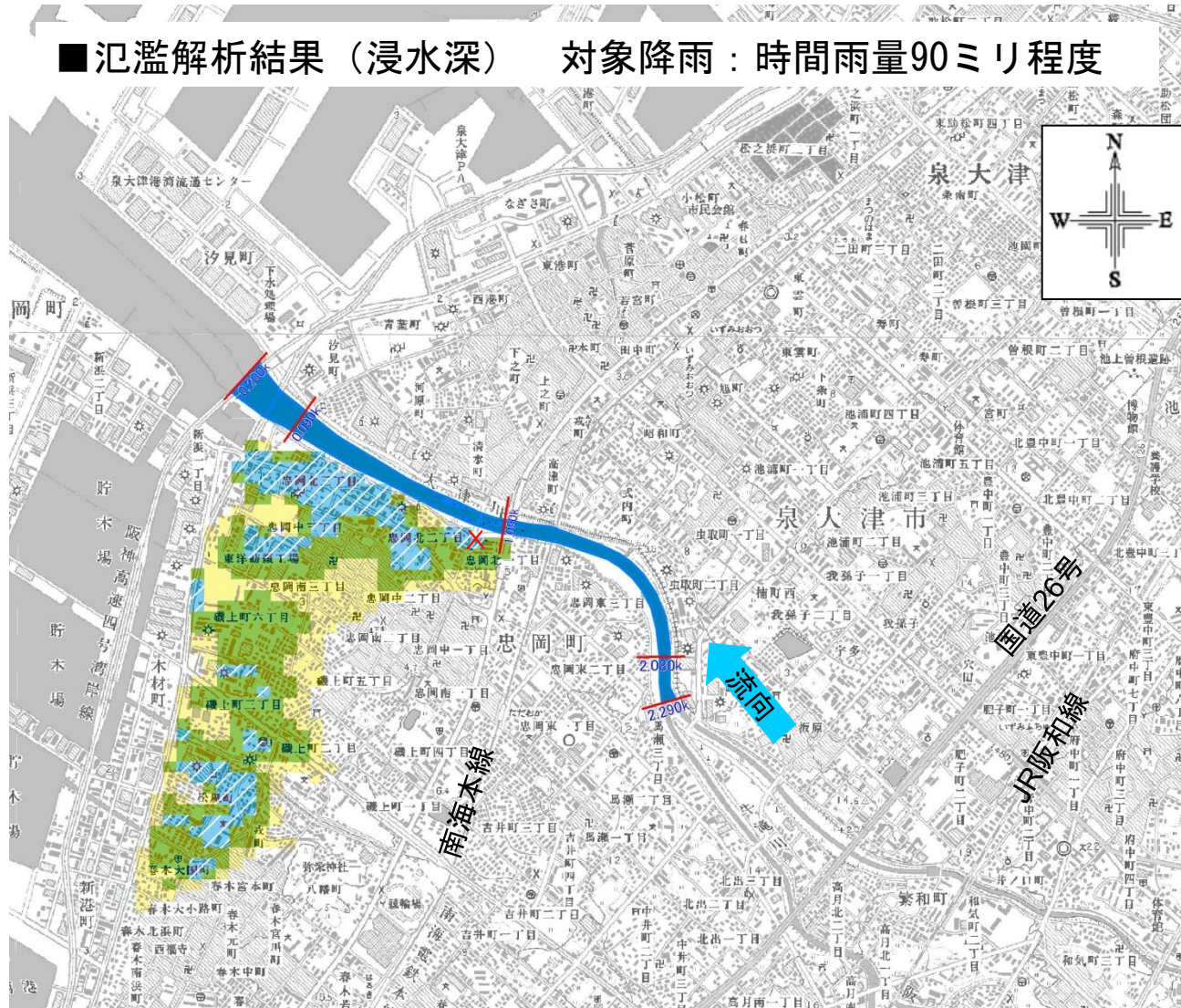
# 4. 当面の治水目標の設定 【大津川】



# 4. 当面の治水目標の設定【大津川：現況河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量50ミリ，時間雨量65ミリ程度，時間雨量80ミリ程度  
⇒ 浸水無し

■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量90ミリ程度



凡例（浸水深）

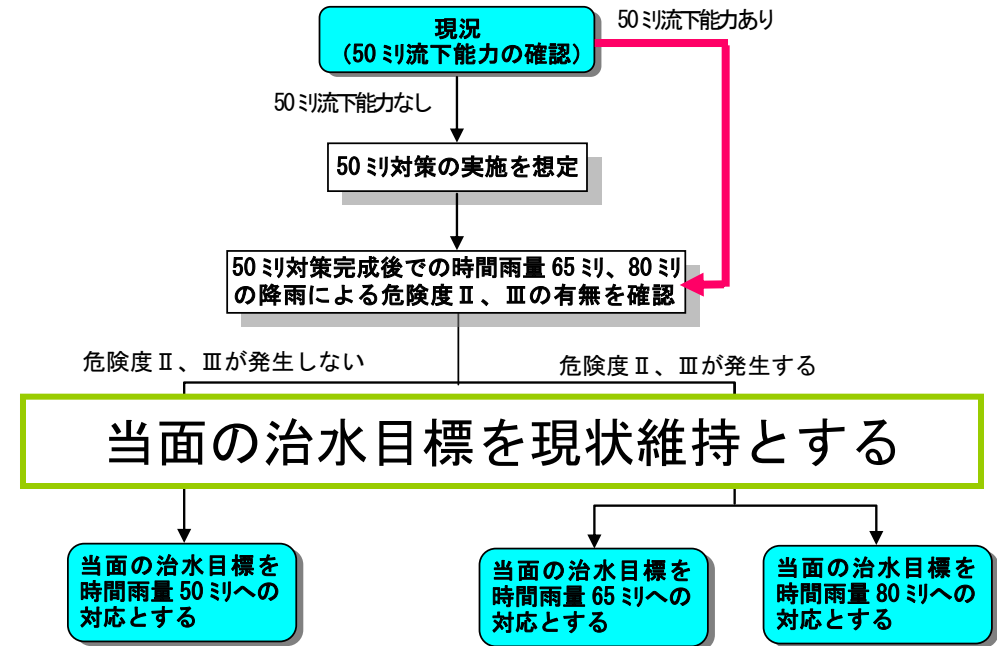
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:yellow;"></span>	0.5m未満
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:lightgreen;"></span>	0.5m以上 1.0m未満
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:lightblue; border:1px solid blue;"></span>	1.0m以上 2.0m未満
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:cyan;"></span>	2.0m以上 3.0m未満
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:blue;"></span>	3.0m以上 4.0m未満
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:red; border:1px solid red;"></span>	4.0m以上 5.0m未満
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:red;"></span>	5.0m以上
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; border:2px solid red; text-align:center; vertical-align:middle;">×</span>	破堤地点
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; border:2px solid orange; text-align:center; vertical-align:middle;">×</span>	越水地点

※被害最大となる破堤地点での破堤を想定(1洪水)

# 4. 当面の治水目標の設定【大津川：現況河道における氾濫解析】

■現況河道（大津川）・・・時間雨量80ミリ程度までの降雨では被害は発生しない。

大 ↑ (発生頻度) ↓ 小	(年確率)	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
	50ミリ (1/10程度)	被害なし	被害なし	被害なし
65ミリ程度 (1/30)	被害なし	被害なし	被害なし	
80ミリ程度 (計画規模)	被害なし	被害なし	被害なし	
90ミリ程度 (超過洪水)	37.00ha 3,173人 7,544百万円	80.25ha 5,707人 54,759百万円	0.25ha 24人 272百万円	
	床下浸水	床上浸水 (0.5m以上)	壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m <sup>3</sup> /s <sup>2</sup> 以上)	
	小 ←	→ 大		
		(被害の程度)		



当面の治水目標の設定フロー

※被害額等は、被害最大となる破堤地点での破堤を想定(1洪水)した被害から算出

# 4. 当面の治水目標の設定 【榎尾川】

## 4. 当面の治水目標の設定

### 槇尾川の治水計画に関する知事の判断 (H23. 2. 15)

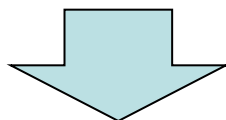
#### ■判断の前提

##### 【河川整備委員会における検討結果】

- 今後20～30年の治水目標としては、時間雨量65ミリ程度への対応とすることが妥当。
- 「河川改修案(河川改修+局所改修)」と「ダム案(河川改修+ダム)」は治水効果面では、ほぼ同程度。

##### 【現地確認による上流部の状況把握】

- 極端な曲がりくねり、部分的に切り立った崖のような護岸、川に張り付くように建ち並ぶ家屋。



#### 【知事の判断】治水手法については、「ダムに頼らない河川改修」を選択。

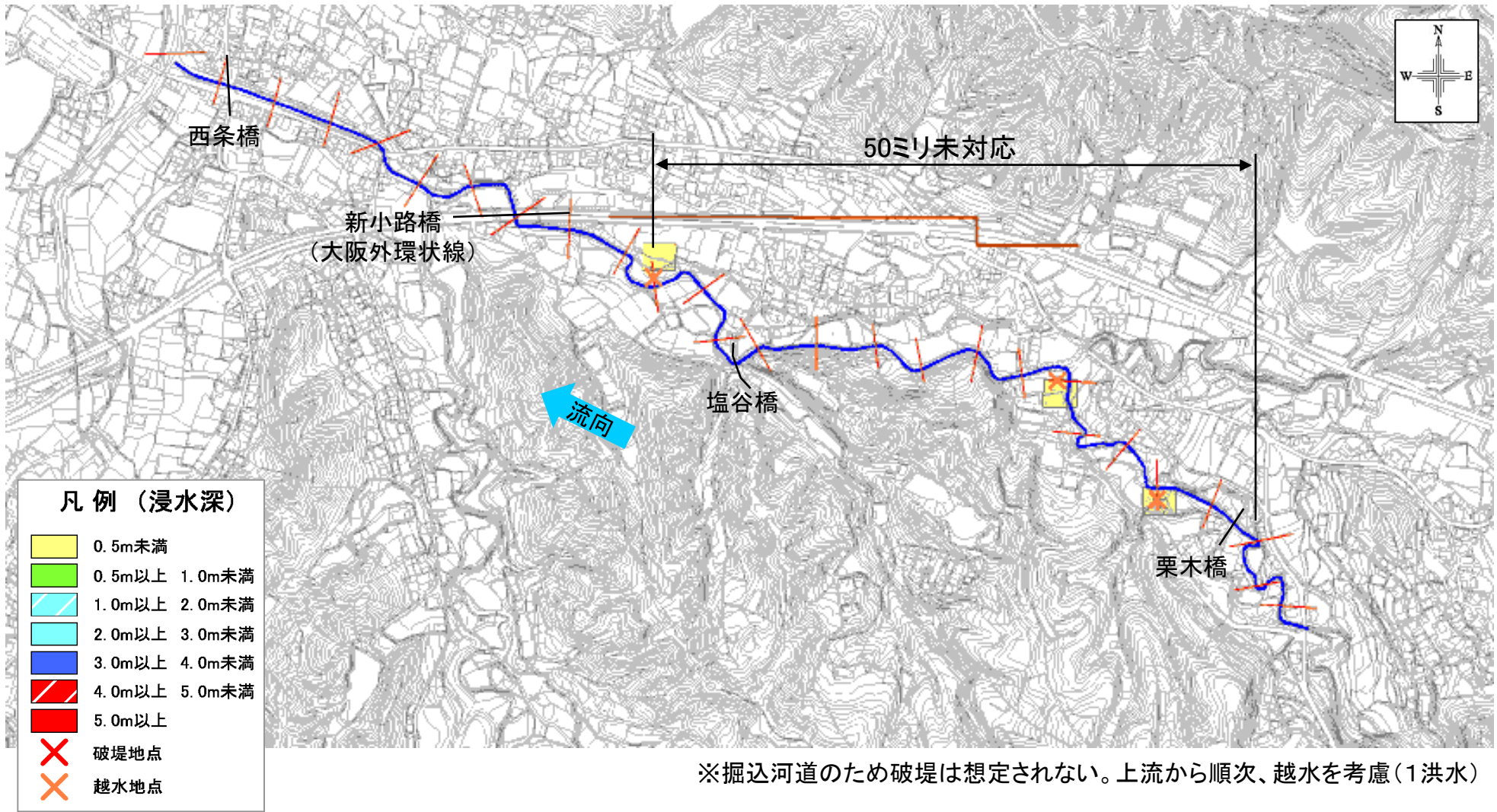
- このまちの状況を放置したままではダメだ。ダムをつくって水を止めるというやり方だけでは、いつまでたっても住民の安全への不安は消えない。
- ダムに頼るのではなく、真に水害に強いまちとして次の世代に引き継いでもらいたい。
- まちの状況に応じて可能な限り河川の拡幅を行い、河川直近の家屋にはセットバックしてもらい河川から遠ざける。

等

# 4. 当面の治水目標の設定 【東槇尾川】

# 4. 当面の治水目標の設定【東槇尾川：現況河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量50ミリ



# 4. 当面の治水目標の設定【東槇尾川：現況河道における氾濫解析】

■現況河道(東槇尾川)・・・時間雨量50ミリの降雨で**危険度 I**が発生する。

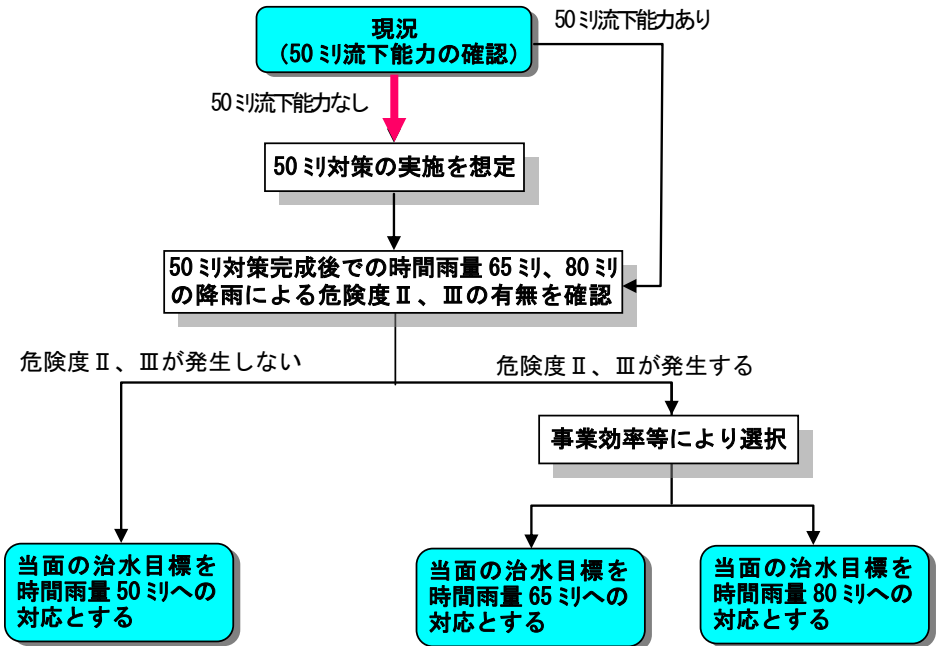
(年確率)	危険度 I	危険度 II	危険度 III
大 50ミリ (1/10程度)	0.75ha 1人 16百万円	被害なし	被害なし
65ミリ程度 (1/30)	1.00ha 0人 1百万円	0.75ha 1人 78百万円	被害なし
80ミリ程度 (計画規模)	1.00ha 2人 4百万円	2.00ha 3人 157百万円	被害なし
90ミリ程度 (超過洪水)	2.25ha 2人 4百万円	2.25ha 3人 158百万円	被害なし

(発生頻度) ↑ ↓ 小

床下浸水      床上浸水 (0.5m以上)      壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m<sup>3</sup>/s<sup>2</sup>以上)

小 ← (被害の程度) → 大

※掘込河道のため破堤は想定されない。  
上流から順次、越水を考慮(1洪水)

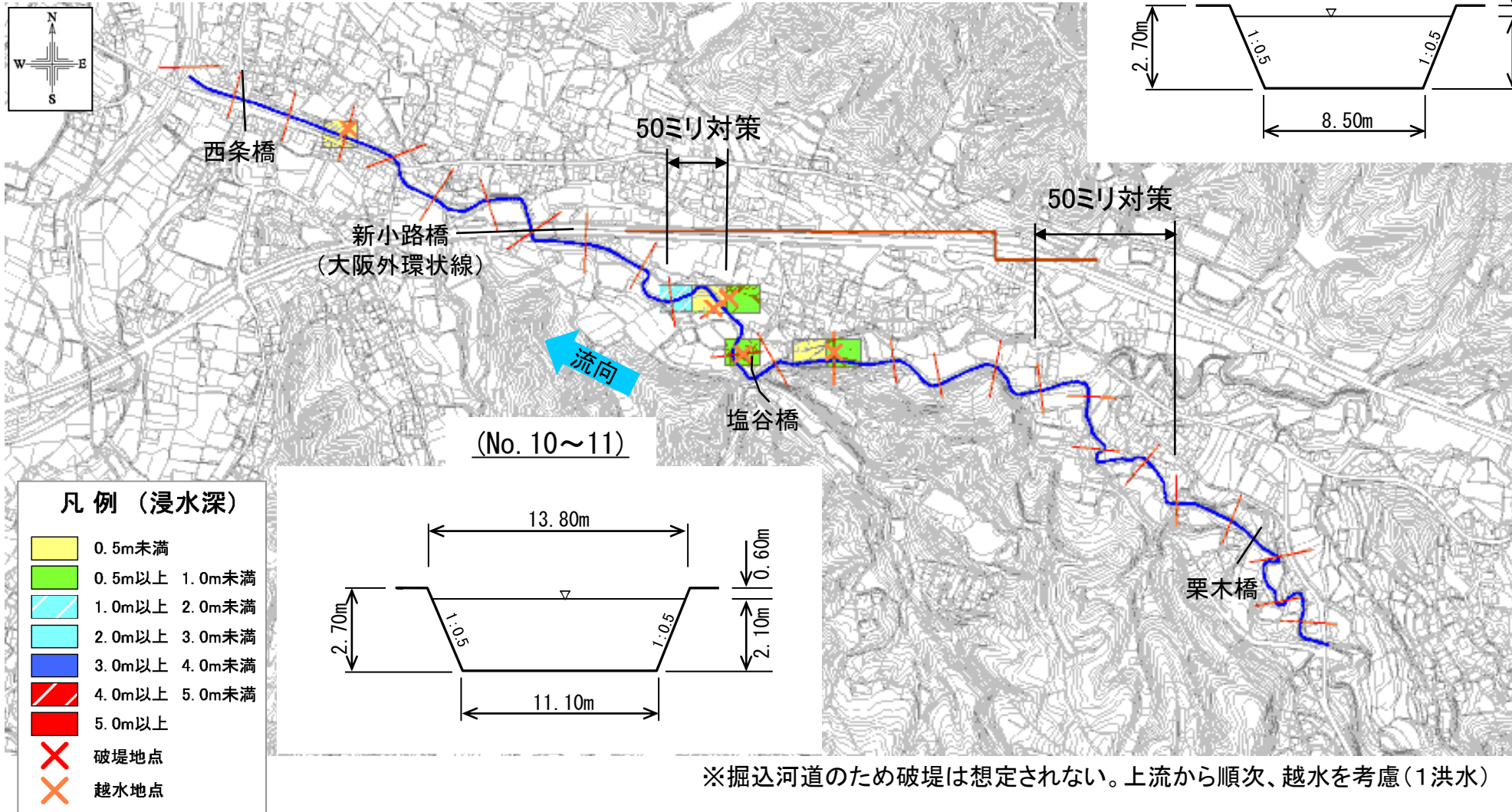


当面の治水目標の設定フロー

時間雨量50ミリ対策の実施を想定

# 4. 当面の治水目標の設定【東槇尾川：50ミリ対策河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量80ミリ程度





# 4. 当面の治水目標の設定【東槇尾川：50ミリ対策河道における氾濫解析】

- 50ミリ対策完成後（東槇尾川）・・・時間雨量65ミリ程度の降雨で**危険度Ⅱ**は発生しない。  
時間雨量80ミリ程度の降雨で**危険度Ⅱ**が発生する。

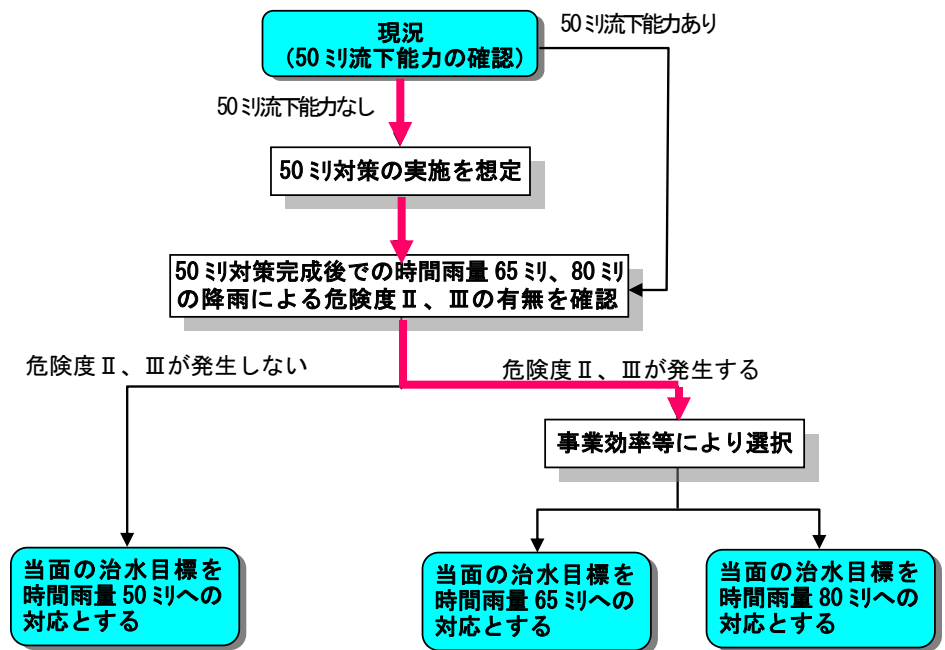
(年確率)	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
50ミリ (1/10程度)	被害なし	被害なし	被害なし
65ミリ程度 (1/30)	0.50ha 0人 0百万円	被害なし	被害なし
80ミリ程度 (計画規模)	0.75ha 2人 2百万円	1.00ha 2人 14百万円	被害なし
90ミリ程度 (超過洪水)	0.75ha 2人 2百万円	1.25ha 2人 14百万円	被害なし

大 ↑ (発生頻度) ↓ 小

小 ← (被害の程度) → 大

床下浸水      床上浸水 (0.5m以上)      壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m<sup>3</sup>/s<sup>2</sup>以上)

※掘込河道のため破堤は想定されない。  
上流から順次、越水を考慮(1洪水)



当面の治水目標の設定フロー

時間雨量65ミリ程度もしくは時間雨量80ミリ程度の対策を事業効率等により選択

# 4. 当面の治水目標の設定【東槇尾川：80ミリ対策河道における氾濫解析】

■ 80ミリ対策完成河道での危険度を氾濫解析により確認する。

※ 時間雨量65ミリ程度では危険度Ⅱの被害が生じないため時間雨量65ミリ対策は行わない。

■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量80ミリ程度



# 4. 当面の治水目標の設定【東槇尾川：当面の治水目標】

## 65ミリ対策※後の危険度

(年確率)	危険度 I	危険度 II	危険度 III
50ミリ (1/10程度)	被害なし	被害なし	被害なし
65ミリ程度 (1/30)	0.50ha 0人 0百万円	被害なし	被害なし
80ミリ程度 (計画規模)	0.75ha 2人 2百万円	1.00ha 2人 14百万円	被害なし
90ミリ程度 (超過洪水)	0.75ha 2人 2百万円	1.25ha 2人 14百万円	被害なし

大 ↑ (発生頻度) ↓ 小

小 ← (被害の程度) → 大

床下浸水      床上浸水 (0.5m以上)      壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m3/s2以上)

効果：0円  
費用：0円

※掘込河道のため破堤は想定されない。  
上流から順次、越水を考慮(1洪水)

## 80ミリ対策後の危険度

(年確率)	危険度 I	危険度 II	危険度 III
50ミリ (1/10程度)	被害なし	被害なし	被害なし
65ミリ程度 (1/30)	被害なし	被害なし	被害なし
80ミリ程度 (計画規模)	0.25ha 2人 2百万円	被害なし	被害なし
90ミリ程度 (超過洪水)	0.50ha 2人 2百万円	被害なし	被害なし

大 ↑ (発生頻度) ↓ 小

小 ← (被害の程度) → 大

床下浸水      床上浸水 (0.5m以上)      壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m3/s2以上)

効果：35百万円  
費用：255百万円

効果－費用：0円

大 > 小

効果－費用：-220百万円

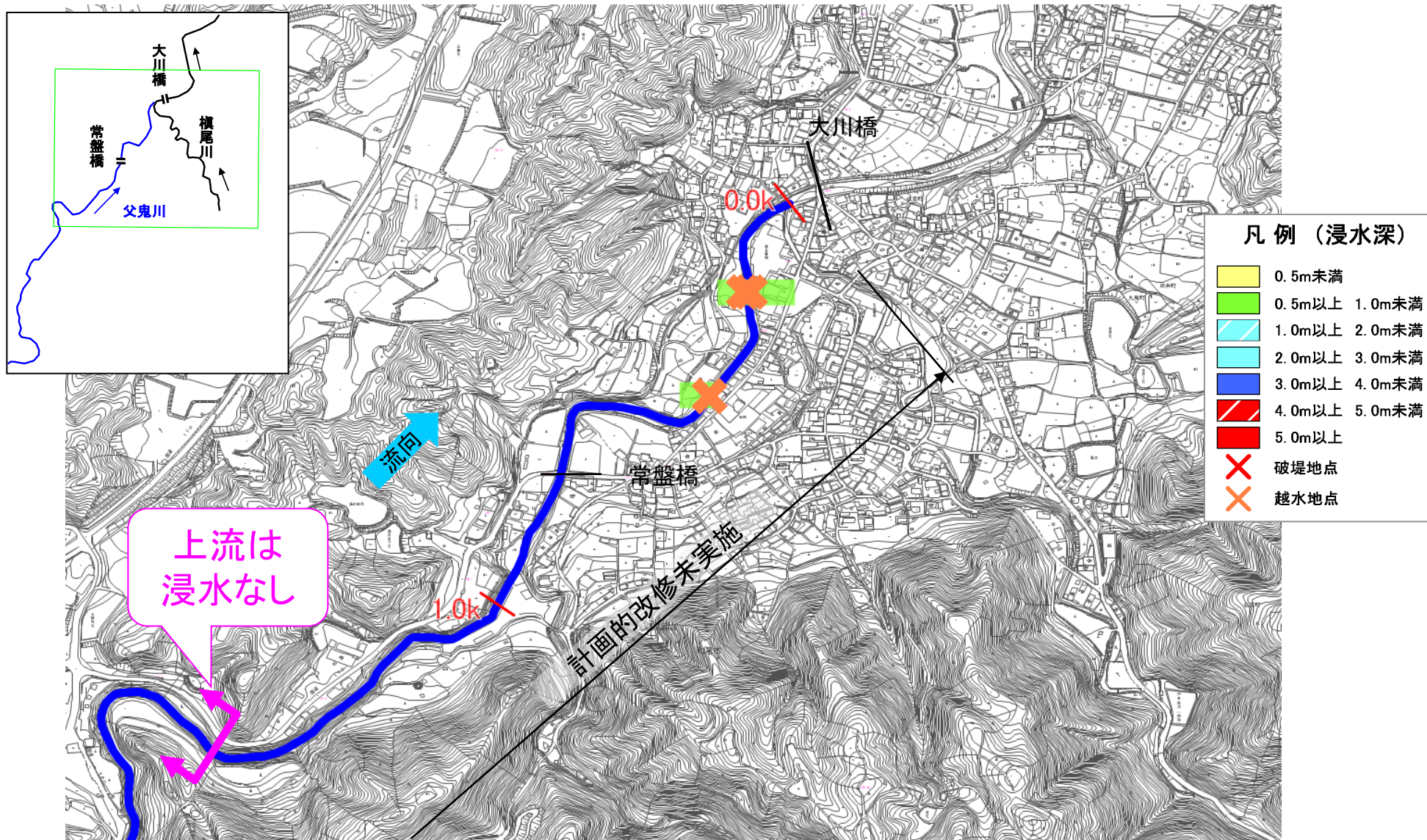
当面の治水目標を時間雨量65ミリ程度※とする

※東槇尾川においては、時間雨量50ミリへの対策として掘込河道で余裕高を確保することから、実質的には時間雨量65ミリ程度の対策となる。

# 4. 当面の治水目標の設定 【父鬼川】

# 4. 当面の治水目標の設定【父鬼川：現況河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量80ミリ程度



※掘込河道のため破堤は想定されない。上流から順次、越水を考慮（1洪水）

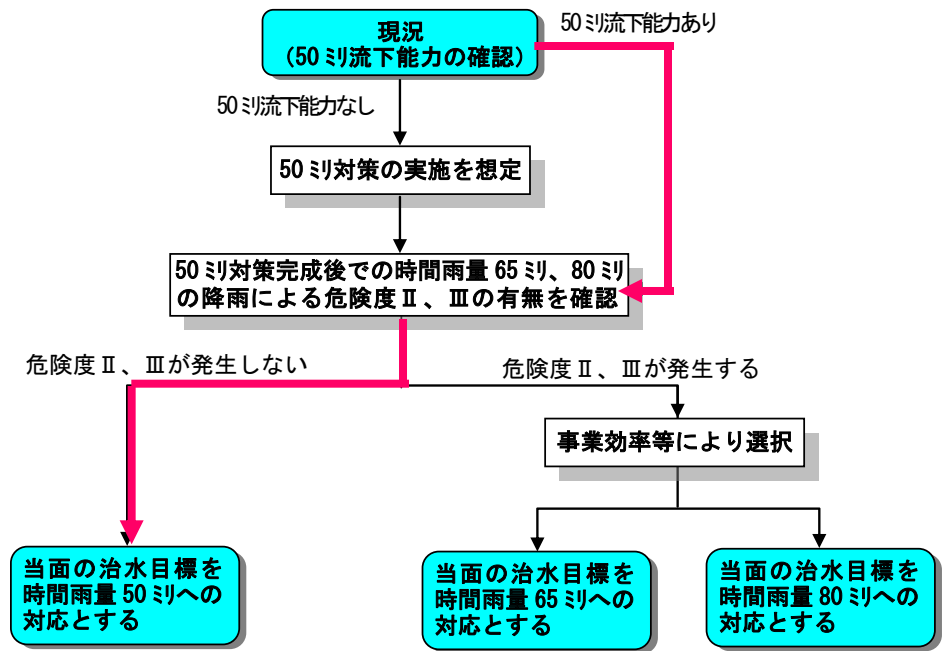
# 4. 当面の治水目標の設定【父鬼川：現況河道における氾濫解析】

■現況河道（父鬼川）・・・時間雨量50ミリ、時間雨量65ミリ程度の降雨では被害は発生しない。

時間雨量80ミリ程度の降雨で**危険度Ⅱ**が発生する。（ただし、人家への被害は発生しない。）

		危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
大 ↑ (発生頻度) ↓ 小	50ミリ (1/10程度)	被害なし	被害なし	被害なし
	65ミリ程度 (1/30)	被害なし	被害なし	被害なし
	80ミリ程度 (計画規模)	被害なし	0.75ha 0人 5百万円	被害なし
	90ミリ程度 (超過洪水)	被害なし	0.75ha 0人 10百万円	被害なし
		床下浸水	床上浸水 (0.5m以上)	壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m <sup>3</sup> /s <sup>2</sup> 以上)
		小 ← (被害の程度) → 大		

※掘込河道のため破堤は想定されない。  
上流から順次、越水を考慮(1洪水)



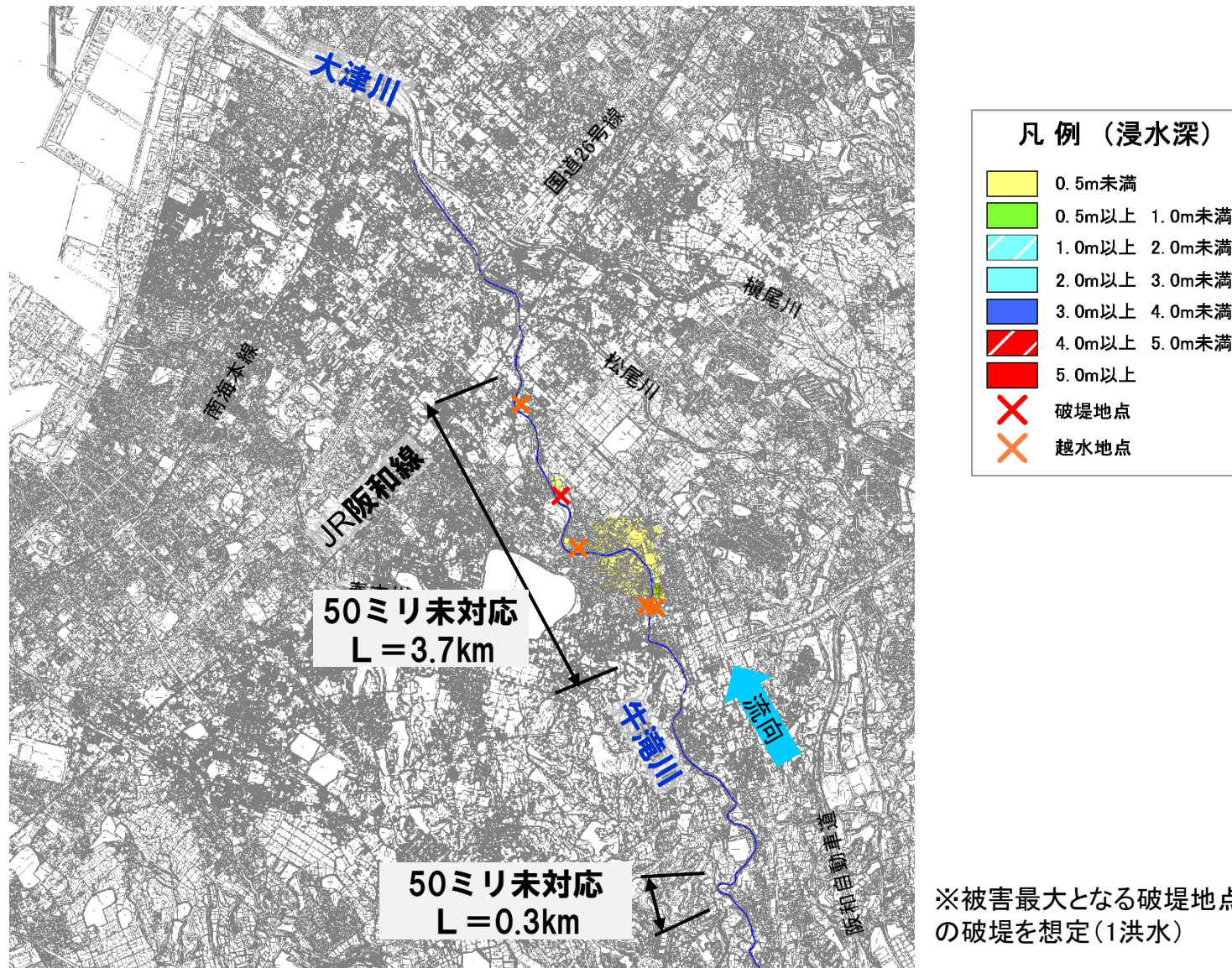
当面の治水目標の設定フロー

当面の治水目標を時間雨量50ミリとする。

# 4. 当面の治水目標の設定 【牛滝川】

# 4. 当面の治水目標の設定【牛滝川：現況河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量50ミリ





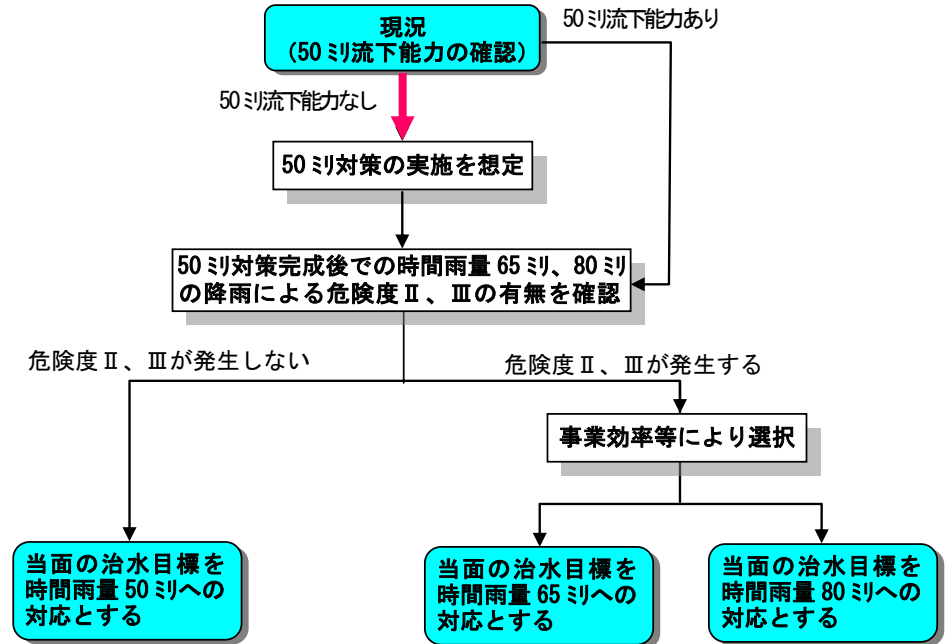
# 4. 当面の治水目標の設定【牛滝川：現況河道における氾濫解析】

■現況河道（牛滝川）・・・時間雨量50ミリの降雨で危険度Ⅰ、Ⅱが発生する。

(年確率)	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
大 50ミリ (1/10程度)	39.75ha 2,529人 4,640百万円	0.50ha 55人 190百万円	被害なし
65ミリ程度 (1/30)	197.50ha 13,604人 25,990百万円	15.75ha 815人 5,490百万円	被害なし
80ミリ程度 (計画規模)	349.00ha 24,891人 48,930百万円	62.50ha 4,009人 29,170百万円	被害なし
90ミリ程度 (超過洪水)	407.00ha 30,072人 63,450百万円	180.75ha 12,275人 100,250百万円	0.50ha 9人 460百万円
小	床下浸水	床上浸水 (0.5m以上)	壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m <sup>3</sup> /s <sup>2</sup> 以上)
	(被害の程度)		

(発生頻度)

※被害額等は、被害最大となる破堤地点での破堤を想定(1洪水)した被害から算出



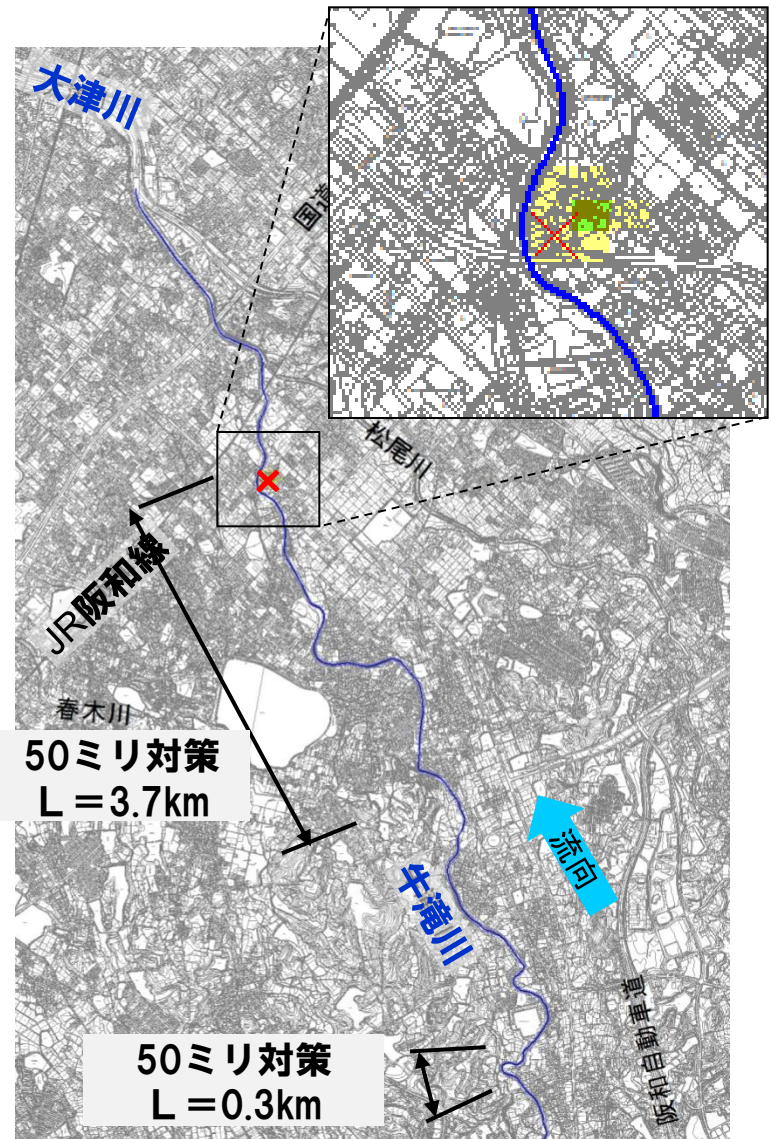
当面の治水目標の設定フロー

時間雨量50ミリ対策の実施を想定

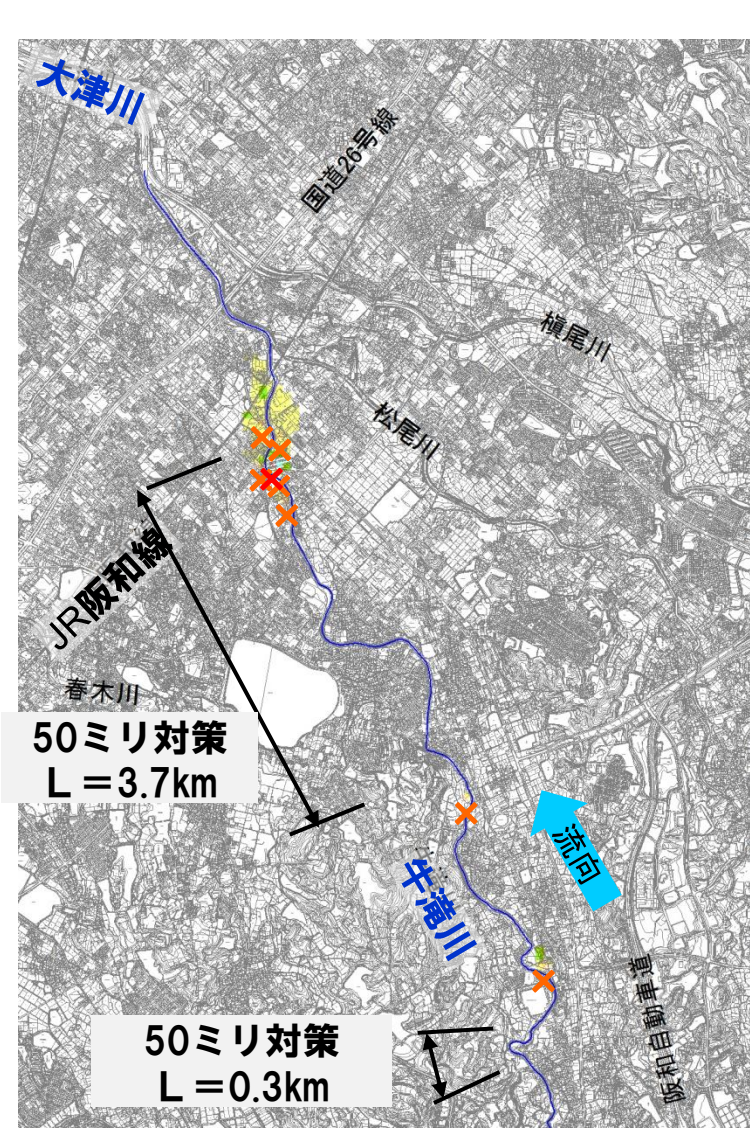
# 4. 当面の治水目標の設定【牛滝川：50ミリ対策河道における氾濫解析】

## ■ 氾濫解析結果（浸水深）

対象降雨：時間雨量65ミリ程度

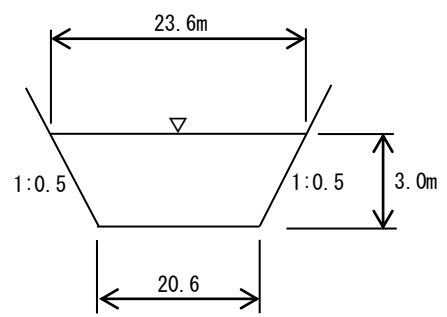


対象降雨：時間雨量80ミリ程度



凡例（浸水深）

	0.5m未満
	0.5m以上 1.0m未満
	1.0m以上 2.0m未満
	2.0m以上 3.0m未満
	3.0m以上 4.0m未満
	4.0m以上 5.0m未満
	5.0m以上
	破堤地点
	越水地点



50ミリ対策断面

※被害最大となる破堤地点での破堤を想定(1洪水)

# 4. 当面の治水目標の設定【牛滝川：50ミリ対策河道における氾濫解析】

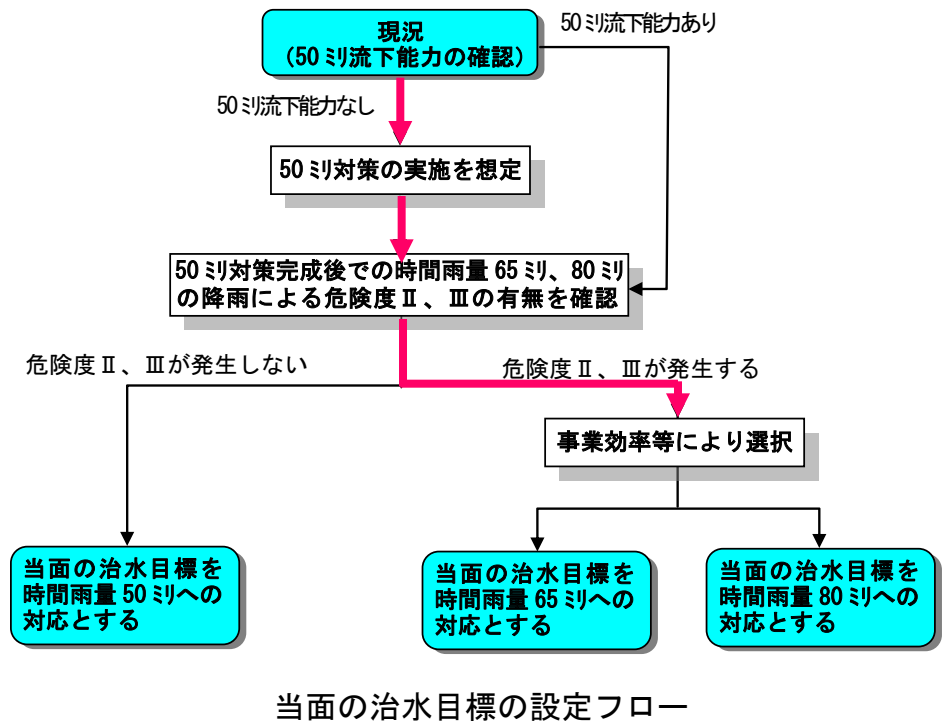
■50ミリ対策河道・・・時間雨量65ミリ程度、時間雨量80ミリ程度の降雨で**危険度Ⅱ**が発生する。

(年確率)	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
50ミリ (1/10程度)	被害なし	被害なし	被害なし
65ミリ程度 (1/30)	1.50ha 69人 150百万円	0.25ha 18人 40百万円	被害なし
80ミリ程度 (計画規模)	19.50ha 982人 2,140百万円	3.50ha 182人 1,150百万円	被害なし
90ミリ程度 (超過洪水)	122.00ha 8,779人 15,450百万円	12.00ha 594人 4,050百万円	被害なし

(発生頻度) ↑ (被害の程度) ← 小 → 大

床下浸水      床上浸水 (0.5m以上)      壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m3/s2以上)

※被害額等は、被害最大となる破堤地点での破堤を想定(1洪水)した被害から算出



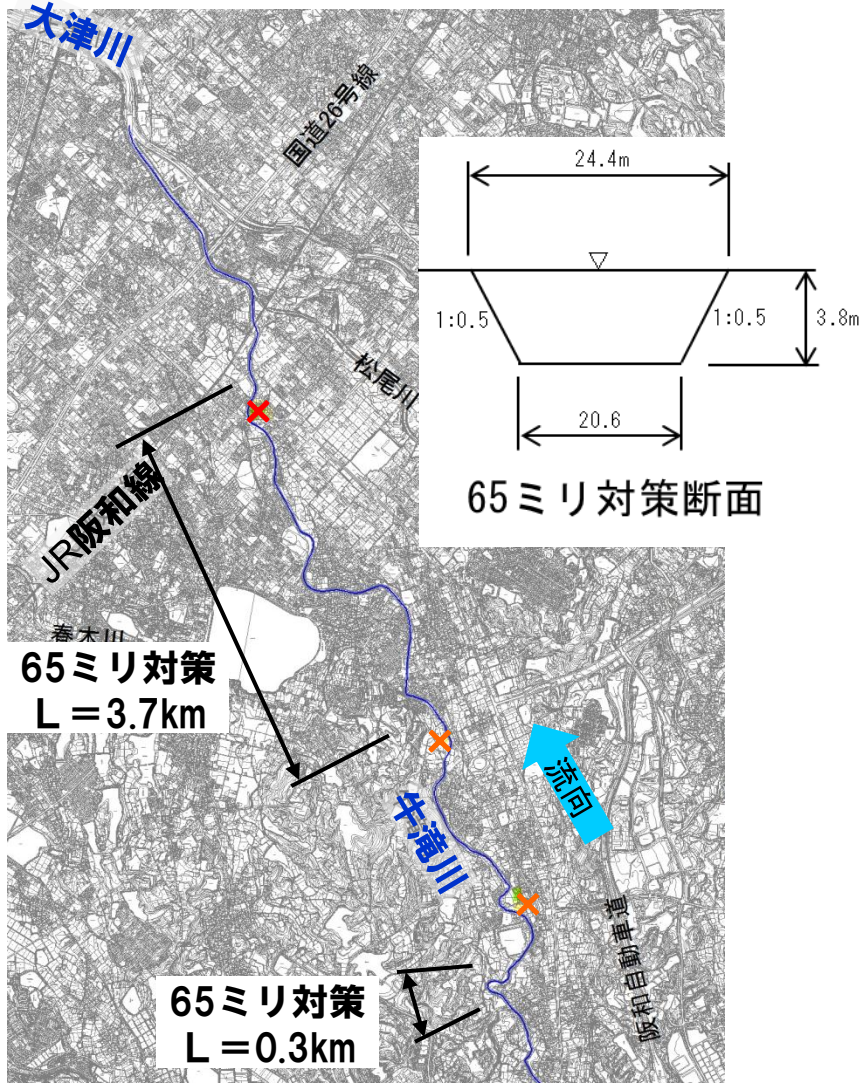
時間雨量65ミリ程度もしくは時間雨量80ミリ程度の対策を事業効率等により選択

# 4. 当面の治水目標の設定【牛滝川での氾濫解析】

## ■ 氾濫解析結果（浸水深）

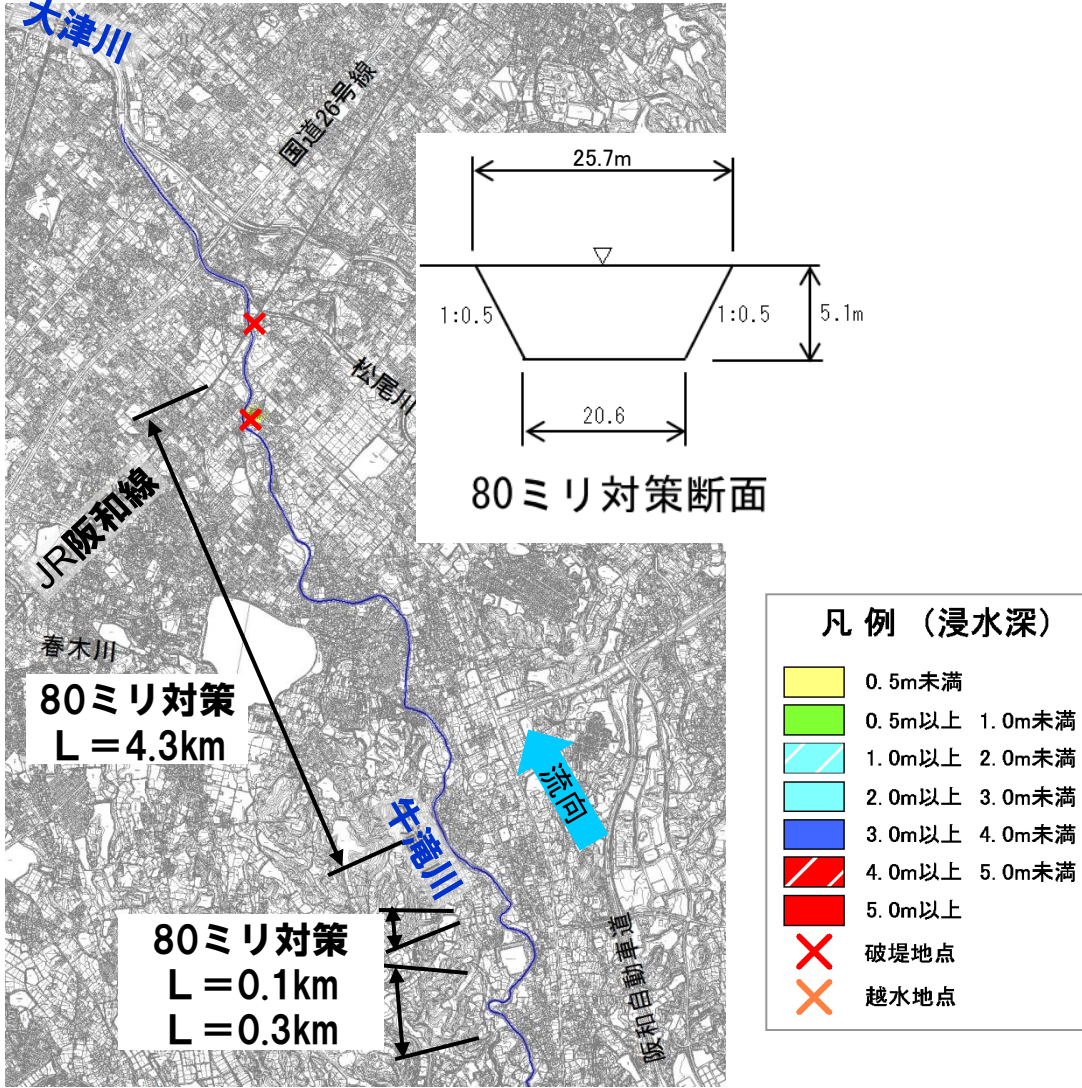
### 65ミリ対策河道

対象降雨：時間雨量80ミリ程度



### 80ミリ対策河道

対象降雨：時間雨量90ミリ程度



凡例（浸水深）

	0.5m未満
	0.5m以上 1.0m未満
	1.0m以上 2.0m未満
	2.0m以上 3.0m未満
	3.0m以上 4.0m未満
	4.0m以上 5.0m未満
	5.0m以上
	破堤地点
	越水地点

※被害最大となる破堤地点での破堤を想定(1洪水)

# 4. 当面の治水目標の設定【牛滝川：当面の治水目標】

## 65ミリ対策後の危険度

(年確率)	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
50ミリ (1/10程度)	被害なし	被害なし	被害なし
65ミリ程度 (1/30)	被害なし	被害なし	被害なし
80ミリ程度 (計画規模)	2.25ha 74人 160百万円	1.25ha 63人 160百万円	被害なし
90ミリ程度 (超過洪水)	11.75ha 682人 1,460百万円	3.25ha 110人 780百万円	被害なし
	床下浸水	床上浸水 (0.5m以上)	壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m <sup>3</sup> /s <sup>2</sup> 以上)
	(被害の程度)		

発生頻度：大 ↑ / ↓ 小

被害の程度：小 ← / → 大

効果：15.3億円

費用：5.5億円 (50ミリ対策からの計上分)

効果－費用：9.8億円

大 > 小

## 80ミリ対策後の危険度

(年確率)	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
50ミリ (1/10程度)	被害なし	被害なし	被害なし
65ミリ程度 (1/30)	被害なし	被害なし	被害なし
80ミリ程度 (計画規模)	被害なし	被害なし	被害なし
90ミリ程度 (超過洪水)	1.50ha 48人 100百万円	0.50ha 39人 100百万円	被害なし
	床下浸水	床上浸水 (0.5m以上)	壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m <sup>3</sup> /s <sup>2</sup> 以上)
	(被害の程度)		

発生頻度：大 ↑ / ↓ 小

被害の程度：小 ← / → 大

効果：17.1億円

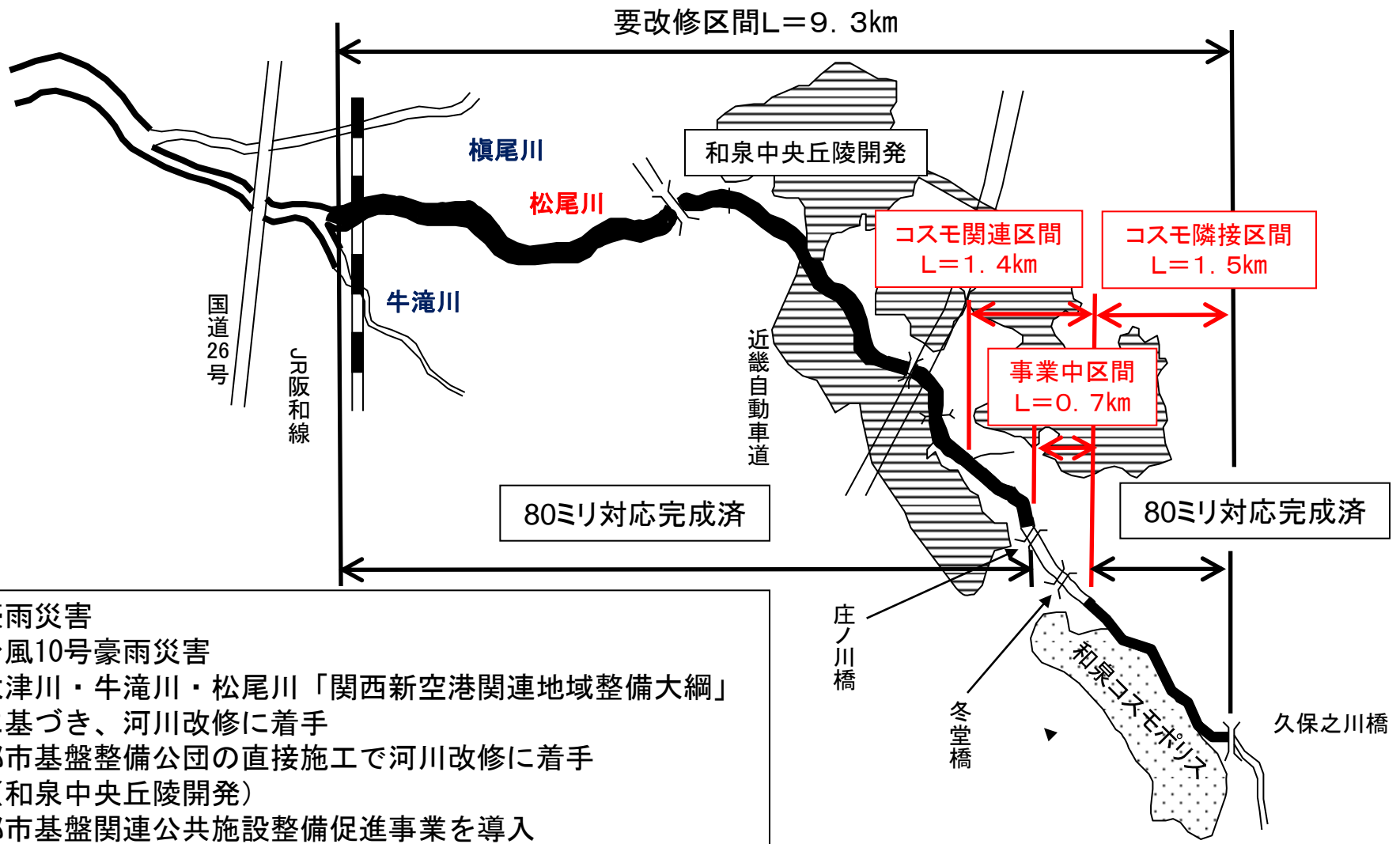
費用：11.0億円 (50ミリ対策からの計上分)

効果－費用：6.1億円

当面の治水目標を時間雨量65ミリ程度とする。

# 4. 当面の治水目標の設定 【松尾川】

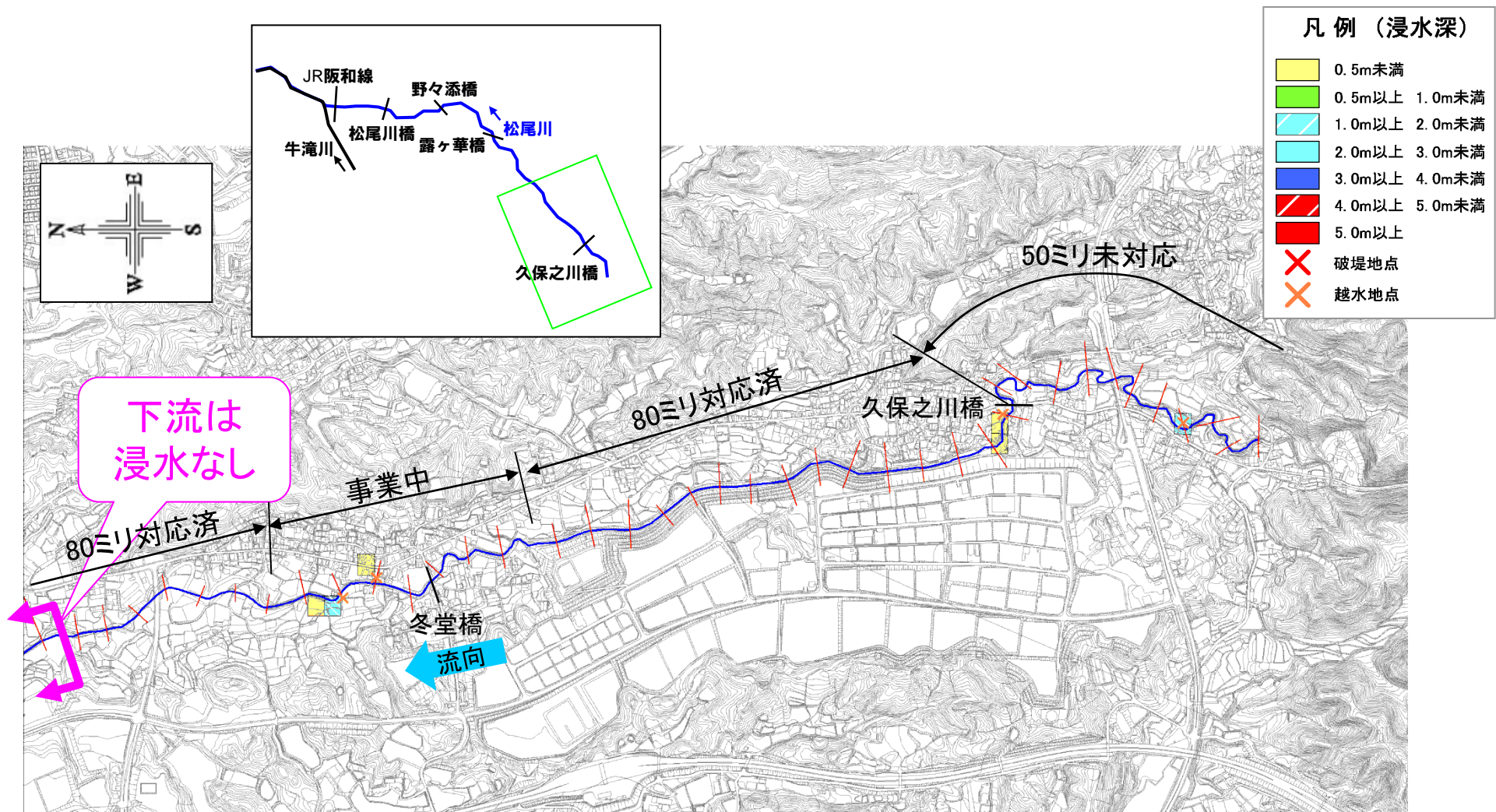
# 4. 当面の治水目標の設定（松尾川の状況）



- S27.7 豪雨災害
- S57.8 台風10号豪雨災害
- S60 大津川・牛滝川・松尾川「関西新空港関連地域整備大綱」に基づき、河川改修に着手
- S60 都市基盤整備公団の直接施工で河川改修に着手（和泉中央丘陵開発）
- S61 都市基盤関連公共施設整備促進事業を導入
- H7 和泉コスモポリス関連区間の事業着手
- H10 和泉コスモポリス関連区間のうち隣接区間が概成
- H13.2 大津川水系河川整備計画策定

# 4. 当面の治水目標の設定【松尾川：現況河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果（浸水深） 対象降雨：時間雨量80ミリ程度



上流部

※被害最大となる破堤地点での破堤を想定(1洪水)



# 4. 当面の治水目標の設定【松尾川：現況河道における氾濫解析】

■現況河道（松尾川）・・・ 時間雨量50ミリ、時間雨量65ミリ程度、時間雨量80ミリ程度の降雨で  
**危険度Ⅱ**の被害が発生する。（ただし、人家への被害が発生しない。）

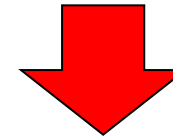
(年確率)	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
大 50ミリ (1/10程度)	被害なし	0.25ha 0人 18百万円	被害なし
65ミリ程度 (1/30)	0.25ha 0人 2百万円	0.25ha 0人 18百万円	被害なし
80ミリ程度 (計画規模)	1.00ha 20人 156百万円	0.50ha 0人 37百万円	被害なし
90ミリ程度 (超過洪水)	19.25ha 1,088人 2,188百万円	7.25ha 228人 3,719百万円	被害なし
小	床下浸水	床上浸水 (0.5m以上)	壊滅的な被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m <sup>3</sup> /s <sup>2</sup> 以上)
	(被害の程度) 小 ← → 大		

※被害額等は、被害最大となる破堤地点での破堤を想定(1洪水)した被害から算出。

## ●用地買収状況

- ◎全地権者に、用地買収に向けた説明会を実施済。
- ◎庄ノ川橋～冬堂橋(L=0.38km)については、ほぼ買収済。
- ◎冬堂橋上流(L=0.32km)についても、買収価格の提示や用地境界確定作業中。

買収対象面積	買収面積	買収率
9,300m <sup>2</sup>	3,730m <sup>2</sup>	40%



未改修区間についても上下流区間と同レベル(80ミリ程度への対応)で改修を進める。

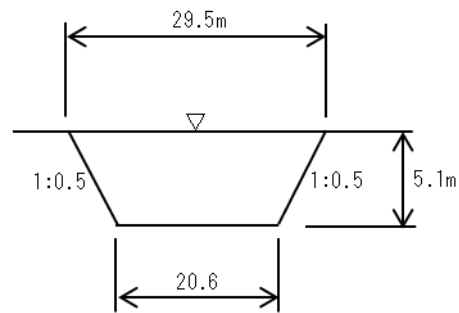
## 4. 当面の治水目標の設定（まとめ）

河川	氾濫シミュレーション結果および当面の治水目標(案)	
大津川	現況	●時間雨量80ミリ程度までの降雨では被害が発生しない。 ⇒当面の治水目標を <b>現状維持</b> とする。
榎尾川	現況	●時間雨量50ミリの降雨で危険度Ⅱが発生する。
	50ミリ 対策後	●時間雨量65ミリ程度の降雨で危険度Ⅱが発生する。 ⇒当面の治水目標は <b>時間雨量65ミリ程度</b> とし、その治水手法は河道改修(局所)とする。
東榎尾川	現況	●時間雨量50ミリの降雨で危険度Ⅰが発生する。
	50ミリ 対策後	●時間雨量65ミリ程度の降雨で危険度Ⅰ、80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱが発生する。 ⇒事業効率比較より、当面の治水目標は <b>時間雨量65ミリ程度</b> とする。
父鬼川	現況	●時間雨量50ミリ・65ミリ程度の降雨では被害が発生しない。 ●時間雨量80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱが発生する。(人家への被害なし) ⇒当面の治水目標を <b>時間雨量50ミリ</b> とする。
牛滝川	現況	●時間雨量50ミリの降雨で危険度Ⅱが発生する。
	50ミリ 対策後	●時間雨量65ミリ程度・80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱが発生する。 ⇒事業効率比較より、当面の治水目標は <b>時間雨量65ミリ程度</b> とする。
松尾川	現況	●時間雨量50ミリ・65ミリ程度・80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱが発生する。 (人家への被害なし) ⇒ただし、事業中区間では、護岸の老朽化が進行していること、用地交渉も概ね進んでいること、及びその上流部が開発に伴い80ミリ対策が完成していることから、 <b>現計画規模(時間雨量80ミリ程度)で改修を継続する。</b>

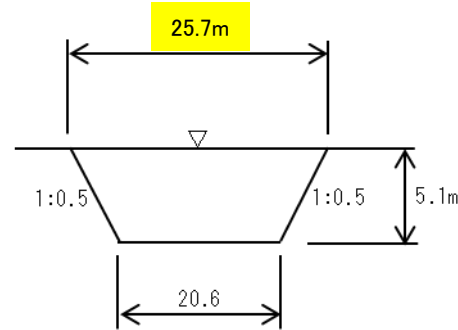
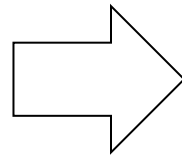
平成24年11月26日(月)に配布した資料に誤りがありましたので、  
修正したものを掲載しております。

修正箇所は以下のとおりです。

- P.28 80ミリ対策断面の図を以下の通り修正。



80ミリ対策断面



80ミリ対策断面